

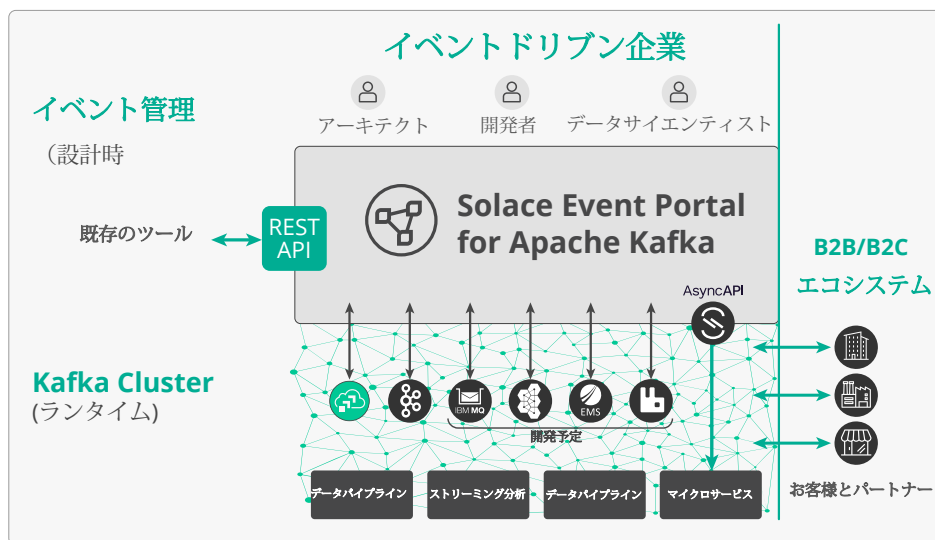
Solace Event Portal for Apache Kafka®

Apache Kafka イベントストリームの検出、カタログ、デザインと管理

企業全体でApache Kafkaを利用する機会が拡大し、ブローカー、クラスター、トピック、スキーマが増加するにつれ、可視性やコントロールの維持が困難になってきます。Solace Event Portal for Apache Kafkaによって、Kafka資産の利用状況を把握し最適化することで、Kafkaへの投資から最大限の価値を引き出せるようになります。Solace Event Portal for Apache Kafkaは、API Portalに類似していますが、イベント向けとなっています。

導入効果

- イベントストリームやスキーマの検出、検索可能なカタログ機能によって再利用を容易にします。
- イベントストリーム管理とソフトウェア開発ライフサイクル (SDLC) を統合することで、より迅速なイベントドリブンアプリケーションの設計が可能となります。
- イベントストリームの利用および再利用に関するKPIを監視することで、イベントストリームのROIを向上させることができます。
- ビルトインされたベストプラクティスやガバナンスツールを活用することで、エラーを減らし、ポリシーや規制によるコンプライアンスを向上させることができます。
- イベントストリームが実装されている箇所や、どのブローカーを経由してどこへ送信されるのかを理解することで、データの健全性やガバナンスを向上させることができます。



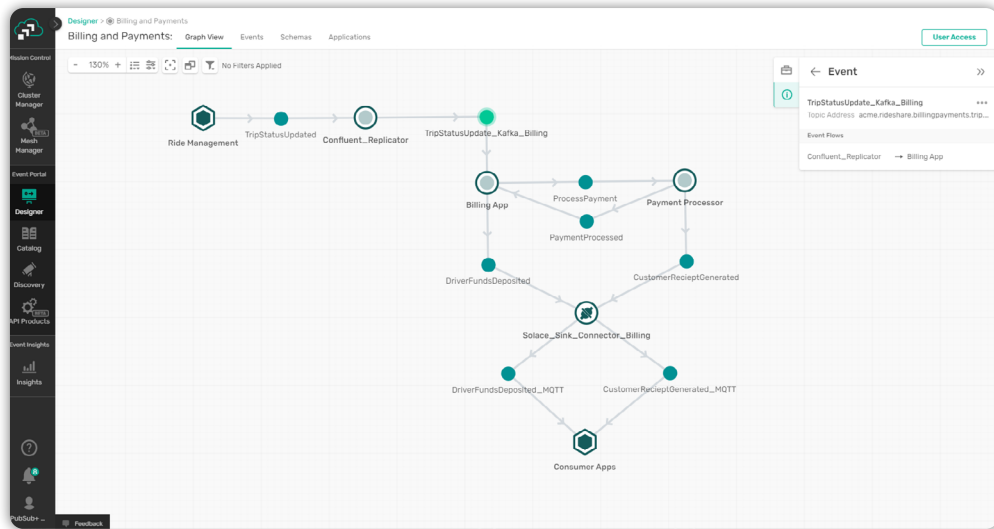
“Event Portal for Kafkaのおかげで、自社のシステムの状況を確実に把握できるようになり、また開発担当者や関連会社は、重要なKafkaストリームをセルフサービスで見つけ出して活用することで、業務の合理化やお客様へのより良いサービス提供を目的とした革新的なサービスを構築できるようになりました。”

Caleb New氏
ソフトウェアアーキテクト
Freus社

“Event Portal for Kafkaによって、標準的なトポロジーマッピングツールやVisioでは不可能だった自社システムの視覚的な表現が可能となりました。”

Kris Erickson氏
ソフトウェア担当ディレクター
Storefront.com社

Event Portal for Apache Kafkaは、Apache Kafka イベントストリームに対して、設計、ガバナンス、その他のイベント管理機能を追加します。他のモデル、スキーマレジストリ、イベントブローカーからイベントを検出してインポートすることで、すべてのイベントストリームやスキーマに関する信頼できる唯一の情報ソースとなります。



“私達は、ローコードやノーコードのソリューションによってアーキテクチャーのモダナイズを推進するに際して、Event Portal for Kafkaがイベントドリブンなマイクロサービスへの移行を加速してくれるものと確信しています。”

David Glenn氏
プリンシパルソフトウェアエンジニア
AFNI社

Kafkaの資産を把握

- ランタイムディスカバリーエージェントを使用して、オープンソース、AWS MSK、ConfluentといったKafkaディストリビューションからイベントストリームを容易にスキャンしてアップロードすることができます。
- Designerでシステムを視覚的に表現し、検出したイベント、エンドポイント、さらにサブスクリプションを、アプリケーションやアプリケーションドメインと関連付けることができます。

イベント、トピック、アプリケーションのカタログ化

- 既存のトピック、スキーマ、イベントメッシュ、各アプリケーション向けのpub/subインターフェース、所有者と連絡先、さらに、管理された各EDAエンティティに対する変更を文書化してトラッキングすることができます。
- フィルター、タグ、所有者によりイベントデータを参照および検索することで、イベントストリームの再利用が可能となります

Event API Productによる集約と共有

- イベントをグループ化し、イベントの再利用を促進します。
- Event API Product の連携によって、社内および社外のステークホルダーとEvent API Productを共有することができます。

ビルトインされたベストプラクティスによるイベントドリブンシステムの設計と可視化

- アプリケーションドメインを使用してシステムを構成することができます。
- 様々な形式でペイロードのスキーマを定義したり、インポートすることができます。
- すべてのアプリケーション、マイクロサービス間のイベントインターフェイスをpub/subインターフェース、関連するトピックのアドレスを含めて定義できます。

一貫性あるイベントドリブンアプリケーションを迅速に開発

- AsyncAPI 2.0.0 の仕様で生成、エクスポートすることができます。
- AsyncAPI オープンソースコミュニティのコードジェネレーターを使って、エクスポートした仕様からアプリケーション向けのコードを生成することができます。

イベントデータのコントロール

- 個々のユーザーによる変更内容を監査、トラッキングできます。
- チームやアプリケーション間でのイベントの利用をコントロールすることができます。
- 各クライアントやインターフェースに適用する仕様を選択できます

依存関係の分析

- アプリ、イベント、スキーマに対する変更提案が、上流および下流の処理に与える影響を完全に把握することができます。
- 最も利用されている、または利用されていないイベントの特定、イベントドリブンデータの流れを追跡することができます。
- 既存のEDAモデルをバルクでインポートし、CI/CDパイプラインに統合することができます。

イベントのライフサイクル管理

- 既存のアプリ、イベント、スキーマをアップデートし、新しいリビジョンを作成することができます。
- オブジェクトを以前のリビジョンにロールバックしたり、削除の取り消しを行うことができます。
- 既存バージョンの最新リビジョンから、アプリ、イベント、スキーマの新しいバージョンを作成することができます。

より詳細または無料トライアルは、
solace.com/products/portal/kafka/
にアクセスしてください